

## 第 2 回安曇野市消防委員会 会議概要

- 1 審議会名 安曇野市消防委員会
- 2 日 時 平成29年2月28日 午後6時30分から午後8時15分まで
- 3 会 場 本庁舎3階 306会議室
- 4 出 席 者 丸山一雄委員長、金盛順一委員、松田政治郎委員、小穴裕司委員、高橋博明委員、  
丸山雅夫委員、池田亨委員、曾根原清委員、布山明廣委員、飯田國隆委員、  
山田稔委員、鳥羽昌弘委員
- 5 市側出席者 丸山危機管理課長、二木係長、大倉主任
- 6 公開・非公開の別 公 開
- 7 傍聴人 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成29年3月10日

## 協 議 事 項 等

- 1 開 会
- 2 委員長あいさつ
- 3 会議事項  
1) 消防団年度計画について  
2) 今後の検討課題について  
3) その他
- 4 閉 会
- 2 審議概要
- (1) 消防団年度計画について  
平成28年度事業報告と平成29年度事業計画、平成28年度の消防団出動状況について、二木係長より説明をした。  
丸山委員長 : ここまでで何か質問事項があれば質疑をお受けする。
- (2) 今後の検討課題について  
安曇野市消防団団員数の実情と機能別団員の検討について二木係長より説明をした。  
丸山委員長 : ここまでで何か質問事項があれば質疑をお受けする。  
松田委員 : これは定数の見直しということも検討するということか。  
丸山委員長 : それを含めた検討ということになるかと思う。団員との交流の中で、定数を満たそうとする中でどの分団も新入団員の確保に苦慮していると聞いている。人口の減っている中で対策を打てないかとも言われた。また、消防団の公務共済の掛け金は定数をベースにしており、定数と実団員数の開きがある現在は二百数十万円を余分に支払っている。これだけあれば1分団は1年間運営できる。これを何かに活用したい。この案が良いか悪いかは別としてたとえば活躍した分団へ功労金として出すなど。団員も勧誘に苦慮する中で、こういうメリットがあると新入団員の勧誘に役立てられるのではないかと。  
定数については事務局から提示された、人口100人に1人としていくことについて各委員が各分団の現役の団員と話し合ってもらって是非を検討してもらってもいいかと思う。  
松田委員 : 消防団の出動報酬や年間団員報酬などは現状、団の会計口座に支払われており、そのまま各分団の会計に充てられている場合が多い。  
丸山委員長 : 消防団活動を金のためにやっている団員も少ないとは思いますが、団員報酬は本来個人に支払われるものか。

【次ページへ続く】

- 二木係長 : 部長以上の階級は、個人の年間報酬が5万円を超えて源泉徴収の対象となるため、個人の口座へ支払っているが、班長以下の階級は、1人1人から口座情報を聴取して支払いをしていくと事務が大変煩雑になるため、委任状をいただいたうえで各部の口座へ支払っている。法律上は問題ないと聞いているが、若い人などからは自分がやったりの対価である報酬を個人にもらいたいという意見も聞く。
- 丸山委員長 : 問題が発生して個人に支払いを行っている自治体もあると聞いている。この問題は団からの要望として挙げられるものと思うのでこれ以上の言及は避けるが、個人的には個人の報酬が部の会計に充てられるのは運営上やむを得ない部分もあると思う。  
また、各管轄区の補助金が消防団へ支払われているが、それも区によって金額の差異がある。
- 布山委員 : 三郷はほとんど区からの補助金をもらっていない。
- 丸山委員長 : そのために、分団・部によっては支払われた団員報酬等をそのまま団員に支払うと運営がままならなくなる分団・部も出てくる。そのあたりの是正もするべきではあると思うが消防委員会の趣旨とは異なると思う。提言をして行政に動いてもらうこともできるとは思うが、(支払われている金額を)上に揃えるのはまず無理で、100万円もらっている部ともっていない部とを、もらう金額を揃えとなると半分の50万円となると思うが、もともと100万円もらっていた分団・部は50万円減ってしまうことになる。
- 布山委員 : 今の話は団員が本来もらうべき報酬を部の会計にあてないと活動がままならないということかと思うが、そもそもなぜそうなってしまっているかが問題ではないか。分団の活動費(運営補助金等)でやっていけない分団があるというのは市の方でも考えてもらう必要があるのではないか。
- 丸山(雅)委員 : 明科では100日夜警と言ってかなりの日数夜警するという行事があるが、維持費が大変かかる。分団・部からは「やめたい」と言ってもやめさせてもらえない。(活動できる)人数が少ないため、個人への負担も大きい。区から消防費という名目で補助をもらっているが、日常の運営に回ってしまっていて夜警のほうにまで回せない。一部の地域のことはあるが。
- 丸山委員長 : 団の活動内容が地域によって異なるのは明らかである。本来であれば市の消防団は全て同様の活動ができれば良いということだと思うが、私のところ(旧堀金村)では協力金として、団に加入していない世帯からは出不足金として年間1万円いただいていたそれが活動費になっていた。合併後にその出不足金を納める人と納めない人と出てきてしまいトラブルになったため廃止となった。その代り、出不足金の8割を区からの協力金として支出してもらうようにした。ただし、区によっては反発したり、理解を示したりで反応が異なっていた。その中で三郷は1年間で区からの補助が2万円というところもある。
- 布山委員 : 今、小倉では区費が1万2千円だが、公民館の運営などにほとんど支出してしまい、残りは少ない。消防団へ補助をするとすると区費を上げるほかない。
- 丸山委員長 : 当時お願いしに行った区では消防団への各世帯からの補助を700円から1,200円に上げるなど協力してもらった区もあった。ただし、区からの要請があれば全て出動するなどの協力体制をとるようにした。三郷も同じ内容の活動はやっていると思う。
- 飯田委員 : 三郷には出不足金という制度はなく、運営費は全て村から出ている。
- 丸山委員長 : 消防団の活動にはどうしても費用が掛かる。今頑張っている団員の活動をそのまま維持できるように応援していきたい。費用が出せないから活動規模を縮小するということはいかない。たとえば消防団のポンプ操法の練習をするな等。ポンプ操法の練習期間にスタミナ会をするとか慰労会をするとか。
- 布山委員 : 三郷は各団員からの持ち出しがあった。
- 金盛委員 : 三郷は他の地区に比べて慰労会などで団員が費用を払うという機会は多かったと思う。

- 鳥羽団長 : 各地区いろいろあるわけですが、三郷は慰労会で費用の持ち出しがあると聞いている。他の地区ではほとんど運営の中でやっていると聞いている。また、分団・部への表彰という意見が先ほど委員長からあったが、同様の意見が昨年度の団員確保対策委員会でもあった。その際、正副団長で検討した結果、そういったものを市から出すということは非常に困難であるとなった。分団・部で独自に出動状況がよかった団員を表彰しているところはある。各地区で団を運営するにあたって活動費を捻出してきた経過が全く異なるため、こちらから一つの結論を押し付けることは難しい。今までさまざまな資料を見てきたが平均すると団員1人につき年間10万円かかっているという実感がある。もちろん極端に運営費が少ない部も多い部もある。その運営費を市で全部まかなえるかというそれは無理なため、それをどうするか一緒に考えようという話は団員としている。
- 丸山委員長 : 大変ショックだったが、昨年の操法大会で突如出場をキャンセルしたところがあった。もし予算の都合でチームの編成に支障をきたしたといったことがあれば考慮していかないとはいけないのではないか。
- 布山委員 : 私が言ったのは活動費の中で運営をしていくべきだということ。
- 丸山委員長 : 市でも上げられれば良いし、区でも上げていければ良い。区の間で不公平があってはいけないと思う。
- 丸山(雅)委員 : 区からもらっている消防費を上げてもらいたいと、現役の団員が区へ要望に行き何百円か上げてもらうといったことは今でもやっているようだ。
- 曾根原委員 : 区からの助成は大事だと思うが、区の大きさはそれぞれ違う、1,600戸ある区から1件500円ずつ集めるのと、50戸しかない区から500円集めるのでは桁が全然違う。かといって区にお願いして区費を上げてもらうというのは到底困難である。区の中には年金で暮らす方もおり区で500円さらに上げるというのは難しいため市で(補助金の額を)上げてもらう方が(良いのではないか)。
- 丸山委員長 : 全て区に負担を押し付けるのではなく、区に増額の話をするのでも市も同様の動きを見せなくてはいけないのではないかと。今の団員が出動手当や団員報酬のすべてが部の会計に入って、それでも足りないとなると現役団員には(団員であることに)デメリットしかない。
- 曾根原委員 : 勧誘に行く際、消防団は地域に貢献する組織だと説得するのは。
- 丸山委員長 : そういう気持ちを持っている方は既に入団している。なかなかそういう方は希少だと思う。
- 飯田委員 : 私が現役のときは、退団する団員が次の新入団員を見つけてきていた。今もそうである場合もあるようだが、勧誘に行っても断る理由が様々である。飲み会が嫌だとか、ポンプ操法が嫌だとか、いろいろな種類の消防団に対する嫌気があるため、一概にこうなら良いというものはないのでは。自分の子供も今年で41歳になるが、今年でやっと団員を辞められると言っていた。他の部にはもっと年上の現役団員もいる。40過ぎて団員を続けるのは気の毒な気がする。楽しみにしている人もいると思うが、なかなか辞められないというのが現状では。
- 丸山委員長 : 私が現役のときは34歳で退団していた。今では現役を40歳までやって分団長までやるようになっていく。現役団員がやりやすいのが一番良いが、松本市では45歳を超えて25年間現役という方もたくさんいる。知り合いに聞くとやはり若者がいないからやめられないらしい。それでも団を維持しないとはいけない。辞める人が見つけてくるのが一番いい方法かもしれないが、見つけてこないで辞められない。中には60歳まで現役で35年やっている方もいる。安曇野もそうならないような手だてが必要で、そうでなければ入ってもらえないということだと思う。
- 消防団と地区の議員とのミーティングなどをやっていかななくてはいけないかもしれない。今後近い将来、人口が減ってきている中消防団員数は減っていく。

丸山委員長 : 定数の削減をしていかないと、(定数が) 架空の数字になってしまう。集まらないから減らすというのは良くないが、しなければ費用の無駄使いになる。  
この話は地区とも話をしていかなければ結論が出ないので、定数については以上としたい。機能別団員については資料にもあったが、今後やらなければいけないと思うが、予算も必要なため今後話をしていければと思う。事務局から次の議題について説明してもらおう。

消防団詰所の統廃合と消防団車両の更新の検討について大倉より説明をした。

丸山委員長 : 今年度は可搬ポンプ積載車3台のうち2台を軽自動車に更新したが、今後は軽自動車が増えてくるのか。

二木係長 : 今回は地元分団・部から管轄地域が山間部や、住宅密集地であるため団からの要望で導入した。今後同様の要望があれば検討していく。今現在その予定はない。

丸山委員長 : 更新になる車両を見るとポンプ車が可搬ポンプ付積載車に変更しているものが多いように見えるが。

二木係長 : 最終的には市内5ブロックに分けてやっているが、出動団員の減少もあり、市内を北部と南部に分けて活動していきたいということで、ポンプ車の車両を減らしていきたいと考えている。

丸山委員長 : 現在の車両は以前より耐久性があがっているが、可搬ポンプはそうではないため、今後はポンプのみ更新していく場合もあると考える。

### (3) その他

丸山委員長 : 松田委員から諮りたい案件がある。

松田委員 : 消防委員の組織のことだが、現在は旧町村から2名ずつ選出しているが、消防団組織の運営も安定してきていることと、今後の議題は団員の確保に係ることであると思う。また、昔の消防団のイメージは酒ばかり飲んでいるというものだったが、今はそうではない。そういう実態をわかってもらうためには委員を各地域から一人にして、消防団経験者に限らず、議員や区長を選出したりして実態を理解してもらいたい。区長にも要望を出しに行くこともあるがどれだけ協力してもらえるか不透明である。特に議員には今の実態を理解してもらいたい。今後の会議の中で話し合っていきたい。

丸山委員長 : 委員会の組織改革をしてはどうかという議題だが、今結論を出すというわけではない。検討していきたいということ。

金盛委員 : 議題によっては委員会に議員を呼んだり、全区の区長を呼ぶのは困難なため特定の区の区長を呼んで要望をしたりすることもできるのではないかと。または、議員代表や区長代表として消防委員になってもらい、議会や区長会で委員会が出た要望を諮ってもらっても良いのではないかと。

丸山委員長 : 区長の任期は1年であるため、交代が多いと思う。一度委員会で決まったことを実行する前に交代していったら大変ではないか。

高橋委員 : それよりは我々委員が区の中に入って行って発言するほうが価値があるのではないかと。

曾根原委員 : 区長のほとんどは消防団の経験がないため、消防団に対する理解が薄い場合がある。そういう人たちに実情をわかってもらえるか。

松田委員 : 逆に自分はその方が良いと思う。消防団に理解がある人は少ない。新入団員を勧誘しに行っても、分かってもらえないことも多かった。イメージが先行して話を聞いてもらえない。色々な人に分かってもらうためには、例として区長と議員を挙げたが、色々な人を検討していくべきでは。

丸山委員長 : たとえば市議の総務委員会と消防委員会で懇談会を開いてはどうか。委員会に来る議員はいないし、市長も年に一度しか来ない。それが成功すれば次は区長会に行くなどで、消防団への壁を崩していくのも良いのではないかと。

松田委員 : 現役団員は既に手一杯であるから何か手伝いをしていきたい。

丸山委員長 : 事務方には是非折衝をしてもらい実現に向けて動いてもらいたい。

高橋委員 : 一つだけ発言をお願いしたい。消防委員として任命されているため行事等への出席率の向上をお願いしたい。団員へのイメージも良くない。

丸山委員長 : 他になければ次回開催日程を決めて終了としたい。

次回開催日程を3月23日(木)とし、閉会とした。